

令和5年度6年生全国学力・学習状況調査の結果について

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること、更に、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的としています。

なお、今回の調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一面にすぎません。本調査の趣旨を十分に理解していただきますようお願いいたします。

結果と考察

<国語>

【国語科における平均正答率】

| | 学習指導要領の領域等 | | | | |
|-------|-------------------------|------------------------|--------------|-------|-------|
| | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | |
| | 言葉の特徴や 使い方に関する 事項 | 我が国の言語 文化に関する 事項 | 話すこと 聞くこと | 書くこと | 読むこと |
| 帷子小学校 | 78.1% | 79.1% | 77.5% | 23.3% | 78.3% |
| 神奈川県 | 70.1% | 64.3% | 70.4% | 25.6% | 70.4% |
| 全国 | 71.2% | 63.4% | 72.6% | 26.7% | 71.2% |

平均正答率が全国平均、神奈川県平均を上回っている領域が多く、全体的に学習の定着がなされていると考えられる。

一方で、情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を考える「書くこと」についての正答率が全国平均、神奈川県平均を下回っており、課題が見られた。文章を構成するとき、引用したり図表やグラフなどを適切に用いたりすることで、自分の考えがより伝わりやすくなるような能力を高めていく必要があると考えられる。

<算数>

【算数科における平均正答率】

| | 学習指導要領の領域等 | | | |
|-------|------------|-------|-------|--------|
| | 数と計算 | 図形 | 変化と関係 | データの活用 |
| 帷子小学校 | 76.9% | 62.5% | 77.3% | 67.4% |
| 神奈川県 | 67.1% | 50.0% | 72.3% | 65.2% |
| 全国 | 67.3% | 48.2% | 70.9% | 65.5% |

全ての領域において、平均正答率が全国平均、神奈川県平均を上回っており、全体的に学習の定着がなされていると考えられる。特に「図形」の領域については、平均を10ポイント以上上回っている。図形の性質を正しく理解し、問題を解決することについて、おおむねの定着が見られると考えられる。

一方で、「データの活用」の領域では、わずかだが課題が見られた。日常場面においても、グラフや表から数量関係を読み取ったり、変化や特徴を考察したりするなど、場面や状況に応じて、必要な数量や関係を捉え、図や式に表したり、処理したりすることを大切にしていける必要があると考えられる。

<全体を通して>

国語、算数の全体を通して、おおむね学習したことが定着していると考えられる。情報を相手に分かりやすく伝えるための「書くこと」の能力の育成に向けては、国語の時間のみならず、他教科の時間も含めて教科横断的に指導を充実させていく。友達との見合いや教師の助言をもとに、自分のものを比べ、相手に伝わりやすいように工夫していく能力を育成できるよう、指導を重点的に行っていきたい。